

石川県内の生地メーカーを訪ねた時のことだ。社長は「まだ実験段階」と前置きした上で、米グーグルのメガネ型端末「グーグルグラス」を使って、生産性改善の取り組みを始めたことを明かした。

生産管理を担当する社員が身につける。リアルタイムで織機の稼働状況が分かるため、不具合があればすぐに対応できる。データを活用した生産の効率化も狙う。導入したのは1台だが「今後、増やす可能性もある」と話す。もともとこの会社は、IT

## 生産性改善 まず試して

を使って生産性を向上させる取り組みには積極的だった。生地をデザインする専用ソフトを導入。織機にカメラを取り付けて無線LANでつなぎ、稼働状況を把握する。生

### 分光器

め、米アップルのiPad（アイパッド）も使う。材料となる糸の加工が難しいと、織機の稼働率が低下することがあるという。こうした場合の対応策を閲覧できるようにしている。

「投資をするだけの余裕などない」という企業もあるかもしれない。だが、少額からでもいいからまずは、試してみたらどうだろうか。意外なところで、効果が出始めるかもしれない。

産品目が多く、販売状況に応じた生産につなげるには、織機ごとの生地の生産量や種類を常に知っておくことが必要だからだ。

ITをうまく活用すれば、工場の生産効率を高めることができる。導入した当初はうまくいかなかったとしても、使い方を工夫すれば、効果が

出てくるだろう。この会社の場合、20年かけて、着実に続けてきたIT投資が実を結んでくるのではないかと

集めたデータを活用するた

でいる。

（金沢支局 斎藤公也）